

●ブックトークシナリオ

【テーマ】 食べ物

【対象】 中学生

【所要時間】 17分

シナリオの記載方法について

- 動作は□で囲ってあります。
- 表示したページ番号は、ここで使用した本によります。版が違う場合は、確認してください。
- 本を朗読する部分は、【 】で囲った太字になっています。
- 本と本をつなぐ言葉は二重下線を引いてあります。

【紹介する本】

	書名	著者名	出版社	出版年
1	めっちゃうま!?昆虫食事典	内山昭一／監修 大串ゆうじ／絵	大泉書店	2022
2	図解でわかる 14 歳から知る食べ物と人類の1万年史	インフォビジュアル研究所 ／著	太田出版	2021
3	巨大おけを絶やすな!	竹内早希子／著	岩波書店	2023
4	ごはん食べににおいてよ	小手鞠るい／作 satsuki／画	講談社	2022

【シナリオ】

●導入

今日は食べ物に関係する本を紹介します。食べ物といえば、食材や調味料があります。食材にはこんなものが食べられるの?と驚くようなものもあります。例えば、最近ニュースで取り上げられている昆虫食があります。

1 『めっちゃうま!?昆虫食事典』

昆虫食は、今世界を救うかもしれないと注目を集めています。皆さんは知っていますか?

子どもの発言(例「知ってる」「食べたことがある」「知らない」)を聞く

表紙をみせる

この本『めっちゃうま!?昆虫食事典』には、どんな昆虫を食べることができるか紹介されています。

p.34のイラストを見せ、カレーライスの絵を指さし、p.35 2段目5行目～11行目を読む

例えば、これはカレーライスですが、エンマコオロギが入っています。コオロギは、【良質なタンパク質や脂質、ビタミンB群、ミネラルがたっぷり含まれていて、栄養バランスはバツグン!(中略)カレーに入れて煮込んだり、佃煮にしても◎。】です。すりつぶして粉末にしたものを練り込んだ麺やパン、せんべいやチョコレートも販売されています。

p.10 項目の見出し(PPOINT①②③)と小見出しを読む

この昆虫食が今注目されています。注目されている理由が3つあります。【POINT①食料不足を解決?昆虫は食料不足や飢餓から人間を救う食材、POINT②地球にやさしい!昆虫は温室効果ガスの排出が少ない、POINT③効率よく飼育できる 少ないエサで短期間に育ち捨てる部分が少ない】

表紙をみせる

この本には、他にも昆虫食の歴史、例えば日本でもイナゴなどを江戸時代から食べていたことが書かれています。また、虫を採る時や食べる時の注意も書かれていますので、ぜひ手に取ってみてください。

2 『図解でわかる 14 歳から知る食べ物と人類の 1 万年史』

表紙を見せる

『めっちゃうま!?昆虫食事典』で昆虫食は食料不足や地球温暖化の解決に役立つことで注目されている食べ物、と紹介しましたが、この『図解でわかる 14 歳から知る食べ物と人類の 1 万年史』には、食料不足に関するデータが紹介されています。例えば、

p.50~51 を見せ、p.50 の見出しを読む

【世界の食料の3分の1が食べられずに捨てられている!!】

p.50 左の絵を指し、イラストの説明文を読む

【約 7 億人が食料不足に苦しむのに】【年間 13 億トンもの食料が、世界中で捨てられています】と書かれています。なぜ捨てるほど食べ物があるのに、飢える人がいるのでしょうか。

p.53 左下のイラストの説明文を読む

次のページでは日本でも【7 人に 1 人の子ども達が飢えと栄養失調に苦しんでいる】と書かれています。食料ロス・食料廃棄や飢餓は解決できるのでしょうか。知りたい人はこの本で調べてみてください。

表紙を見せる

この本には食料ロス・食料廃棄以外に、食べ物の歴史や、環境問題と食、AI やドローンを使うスマート農業など、様々な食べ物の問題や話題が、イラスト付きで説明されています。

3 『巨大おけを絶やすな!』

表紙を見せる 桶を指さす

前の本には世界の食料問題について書かれていましたが、この本は日本の伝統的な食品に迫る危機について紹介した本です。どんな危機かというと、ヒントはこの絵です。これは、人が何人も入ることができるくらい大きな桶です。いったい何に使う桶かわかりますか?

子どもの発言(例「お風呂」「OO」)を聞く

答えは、醤油を作る時に使う桶です。醤油は日本の食べ物には欠かせない調味料です。この桶は高さと同径がそれぞれ 2 メートル前後あります。味噌や日本酒を作る時にも使うことがあります。

p.17 3~5 行目を読む

【いま、日本で生産されている醤油のうち、木桶でつくられている醤油の割合はどのくらいだと思いますか?答えは、たったの 1 パーセント。】

なぜ、木桶を使うのでしょうか?木桶を使うと、酵母や菌など微生物の働きでこんな醤油ができるそうです。

p.19 8 行目~10 行目を読む

【こうしてできた醤油には、蔵ごとの個性が強くあらわれます。こうばしくて、かすかに^{いしぶ}燻したような香りの醤油。すっきりして、ほのかに木の香りが混じる醤油。こってりと濃厚で、カラメルのような味わいの醤油。】

表紙を見せる 桶を指さす

ところがある日、木桶で醤油を作っていた会社で大変なことが起きます。木の桶が壊れ、底に穴が開いてしまったのです。

p.25 12 行目を読む

そこで、日本で最後の桶屋に桶を注文すると、こう言われます。【いつまでできるか、わからなくて。壊れたら、自分たちで直し】桶屋は会社をたたむ、つまり会社をやめるというのです。桶は 100 年使い続けることができますが、次に買い換える 100 年後、桶は買えません。困った醤油会社の人はどうしたと思いますか?

表紙を見せる

実は、自分たちで作ることにしたのです。続きはこの『巨大おけを絶やすな!』を読んでみてください。

4 『ごはん食べにおいでよ』

食事をおいしくするのは、先程の醤油のように木桶で丁寧に作られた調味料だけではありません。
この本に、そのヒントがあります。

表紙を見せ、右側の男の子を指さす

この本『ごはん食べにおいでよ』は、料理が大好きな雪という男の子が主人公です。この店は雪が大人になって開いたベーカリーカフェ「りんごの木」です。

雪はなぜカフェを開こうと思ったのでしょうか。始まりは中学2年生の時でした。惣菜屋を開いていた祖母と、料理好きな父親の影響で、雪も料理を作りはじめました。父親と2人で暮らしていた雪は、ある日、同じマンションに住む小学生の男の子、由月が鍵を忘れて家に入れず困っている様子を見て声をかけます。

p.29 8行目を読む

すると由月は【「ピアノ教室から帰ってきて、おなかぺこぺこやねん」】と言います。

p.31 11行目を読む

雪は、【「由月くん、よかったら、これからぼくちに、ごはん食べにおいでよ」】と言いました。

p.34 13行目～p.35 2行目を読む

翌朝、雪は昨夜のことを思い返しました。【ゆうべの晩ごはんは、とても楽しかった。いつもは父とふたりきりだけど、そこに由月少年が物わただけで、あんなにも、にぎやかになるものなんだと、感心した。ポテトサラダは、由月少年といっしょに、仕上げをした。】食事の準備を一緒にして、ごはんも一緒に食べる楽しさを知った雪は、由月や友達とごはんを食べる機会が増えました。

p.73 10行目～14行目を読む

大勢での食事の後、本を読もうとして雪はふとこんなことを思いました。【こんな時間は、きらいじゃない。ぼくのまわりに漂っているのは、幸福だ。(中略)料理に似ている。食べてくれる人の笑顔を思い浮かべながら、料理をつくっている時間に。】

表紙をみせる

本には雪が誰と一緒にどんなごはんを食べたか、どんな料理が得意なのかもっと詳しく書かれています。雪がカフェを開こうと思った理由もわかります。

●まとめ

紹介した本の表紙を順に見せ、本の書名を言う

さて、食べ物をテーマにした本を4冊紹介しました。最初は、たんぱく質が豊富で食料不足や地球温暖化を解決する助けとなる「昆虫食」の本『めっちゃうま!?昆虫食事典』。次に食料不足に関するデータと、解決方法がわかる『図解でわかる14歳から知る食べ物と人類の1万年史』。醤油づくりのため、巨大な桶作りに挑戦した人々を描く『巨大おけを絶やすな!』。最後は、ベーカリーカフェを開いた料理好きの男の子の物語『ごはん食べにおいでよ』です。今日紹介した本は、全部図書館にありますので、ぜひ読んでみてください。

【その他の本】こちらの本もおすすです。また、ご自身で追加・差し替えをするなど工夫してみましょう。

- ・『ウシのげっづいを退治しろ』 大谷智通／著 小林泰男／監修 旬報社 2022年
- ・『給食アンサンブル』 如月かずさ／作 光村図書出版 2018年
- ・『故郷の味は海をこえて』 安田菜津紀／著・写真 ポプラ社 2019年
- ・『さばの缶づめ、宇宙へいく』 小坂康之／著 林公代／著 イースト・プレス 2022年
- ・『捨てられる食べものたち』 井出留美／著 matsu／絵 旬報社 2020年
- ・『ぼくたちのスープ運動』 ベン・デイヴィス／作 渋谷弘子／訳 評論社 2022年

山梨県立図書館 2023.3